

松江歴史館館蔵品展「長崎家の籐細工」 広報物およびパンフレット製作業務委託 プロポーザルデザイン提案書類作成要領

—目次—

広報物（ポスター・チラシ）デザイン

《基本事項》	1
《ポスター》	2
《チラシ（表面）》	5
《チラシ（裏面）》	7

パンフレットデザイン

《基本事項》	10
《表紙》	11

広報物（ポスター・チラシ）デザイン

《基本事項》

(1)別紙「開催概要」に示す館蔵品展の見どころが伝わり、目を引くデザインとすること。

(2)ターゲット層は、30歳代以上の伝統工芸や民藝に関心がある松江市民。

メインターゲット層に加え、松江城や松江歴史館を松江市滞在中の訪問先として選択するような、日本の文化をより深く学ぶ意欲のある高校生以上の人の関心を引くデザインにすること。

(3)別紙「開催概要」に示す館蔵品展の開催趣旨が伝わるようなレイアウト、書体とし、タイトル、会期、会場をわかりやすくすること。

(4)ポスター、チラシ（表面）に統一感をもたせること。

(5)仕様書で定める色数、仕上がり寸法で提案すること。仕上がり寸法でない提案書は受け取らない。ただし、提案の用紙は仕様書で定めるものでなくてもよい。

《ポスター》

1. ポスター デザイン素材画像

<p>① 《極細一楽編煙管入》初代長崎仲蔵作（当館蔵）</p> 	<p>② 《石畳編炭斗》二代長崎福太郎作（当館蔵）</p> 
<p>③ 《花結編籠信玄》三代森山千代市作（当館蔵）</p> 	<p>④ 《弦月色違一楽編果物籠》四代森山誠一作（当館蔵）</p> 
<p>⑤ 《土瓶敷》五代長崎藤吉作（当館蔵）</p> 	<p>⑥ 《花結編クラッチバッグ》六代長崎誠作（当館蔵）</p> 

【画像使用条件 ※必読】

※上記画像①～⑥を使用してデザインすること。ただし、展示作品と見間違ふことのないもの（文様パターンなど）であれば、他の画像を使用してもよい。

※画像のトリミング加工はしてもよい。作品の色を変えるような加工等を不可とする。

※作品に文字がかかること、作品と作品がかぶることは不可とする。

※使用した画像のキャプション（作品名等）は必ず記載すること。

2. ポスター 記載内容

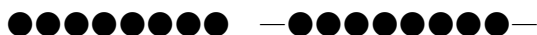
- (1)タイトル：館蔵品展 長崎家の籐細工―松江でつづく丁寧な仕事―
- (2)キャッチフレーズ：あってもなくてもよい。もしキャッチフレーズを入れる場合は、下記2例のいずれかのテーマに沿ったキャッチフレーズを入れること。
2例のテーマをそのままキャッチフレーズにすることは可能とする。
「美しき伝統技術」、「繰り返して 受け継いで」
- (3)会 期：令和7年(2025)7月18日(金)～9月15日(月・祝)
- (4)開催時間：9時00分～17時00分(観覧受付は16時30分まで)
※オープニング式典のため、7月18日(金)のみ展示室は9時30分開場
- (5)休 館 日：毎週月曜日 ※祝日の場合は翌平日、ただし8月12日(火)は開館。
- (6)会 場：松江歴史館 企画展示室
- (7)主 催：松江歴史館
- (8)後 援：【後援者名(20団体程度を予定)が入ります(140字程度)】
- (9)観 覧 料：

区分		個人(団体 ※20人以上)	松江市民
館蔵品展	大人	480円(380円)	240円
	小・中学生	無料	無料
セット券	大人	830円(660円)	なし
	小・中学生	無料	なし

※高校・大学・専門学校に通う学生は学生証の提示で団体料金

※市民料金の適用を受けるには、運転免許証・マイナンバーカードなど、現住所が確認できるものを受付で提示。

(10)記念対談：



無料 定員60名(先着順) 要申込

会場：松江歴史館 歴史の指南所

日時：●月●日(●) 14時～15時30分

講師：長崎 誠氏(松江藩籐細工 6代目)

川口 淳平氏(同8代目)

※館蔵品展観覧券または年間パスポートが必要です。

(11) 親子で籐細工体験

要申込、定員●●名

日時：●月●日(●)13時30分～15時30分

集合場所：松江歴史館 歴史の指南所

参加費：●●●円

※館蔵品展観覧券または年間パスポートが必要です。

(12) ギャラリートーク

展示担当者による展示解説

申込不要

日時：●月●日(●)、●月●日(●)、●月●日(●)

各日 14時～15時

会場：企画展示室

※館蔵品展観覧券または年間パスポートが必要です。

(13) 館の情報：松江市立松江歴史館（ロゴ）

（住所）島根県松江市殿町 279 番地

（電話）0852-32-1607 （FAX）0852-32-1611

[Facebook](#) [X](#) [Instagram](#) で最新情報を配信中！

最新の情報は松江歴史館ホームページにてご確認ください

(14) そ の 他： 必ずホームページアドレスの QR コードを掲載すること。

《チラシ（表面）》

1. チラシ（表面） デザイン素材画像

使用画像は《ポスター》1.ポスター デザイン素材画像と同じとする。

【画像使用条件 ※必読】

※ポスターと同じ条件とする。

※ポスターで使用可能な画像①～⑥を使用してデザインすること。ただし、展示作品と見間違うことのないもの（文様パターンなど）であれば、他の画像を使用してもよい。

※画像のトリミング加工はしてもよい。作品の色を変えるような加工等を不可とする。

※作品に文字がかかること、作品と作品がかぶることは不可とする。

※使用した画像のキャプション（作品名等）は必ず記載すること。

1. チラシ（表面） 記載内容

- (1)タイトル：館蔵品展 長崎家の藤細工―松江でつづく丁寧な仕事―
- (2)キャッチフレーズ：あってもなくてもよい。もしキャッチフレーズを入れる場合は、下記2例のいずれかのテーマに沿ったキャッチフレーズを入れること。
2例のテーマをそのままキャッチフレーズにすることは可能とする。
「美しき伝統技術」、「繰り返して 受け継いで」
- (3)会 期：令和7年（2025）7月18日（金）～9月15日（月・祝）
- (4)開催時間：9時00分～17時00分（観覧受付は16時30分まで）
※オープニング式典のため、7月18日（金）のみ展示室は9時30分開場
- (5)休 館 日：毎週月曜日（祝日の場合は翌平日、ただし8月12日（火）は開館。）
- (6)会 場：松江歴史館 企画展示室
- (7)主 催：松江歴史館
- (8)後 援：【後援者名（20団体程度を予定）が入ります（140字程度）】
- (9)観 覧 料：

区分		個人（団体 ※20人以上）	松江市民
館蔵品展	大人	480円(380円)	240円
	小・中学生	無料	無料
セット券	大人	830円(660円)	なし
	小・中学生	無料	なし

※高校・大学・専門学校に通う学生は学生証の提示で団体料金

※市民料金の適用を受けるには、運転免許証・マイナンバーカードなど、現住所が確認できるものを受付で提示。

- (10)館の情報：松江歴史館（ロゴ）
（住所）島根県松江市殿町 279 番地
（電話）0852-32-1607 （FAX）0852-32-1611

[Facebook](#) [X](#) [Instagram](#) で最新情報を配信中！

最新の情報は松江歴史館ホームページにてご確認ください

- (11)そ の 他： 必ずホームページアドレスの QR コードを掲載すること。

《チラシ（裏面）》

1. チラシ（裏面） 記載内容

（1）館蔵品展概要文

松江藩の籐細工は、江戸時代後期の文政年間には作られ始めていたといい、下級武士が内職として煙管入を製作していたと伝えられています。この江戸時代の技法を現代に伝えるのが長崎家の籐細工です。江戸時代末期、松江藩の料理方であった長崎仲蔵が松江藩下屋敷で籐細工を作ったことが始まりとされています。2代目福太郎が長崎家秘伝の技とされる六弁の花模様が並んだ編み方「花結び」を考案するなど、各代で時代に合わせた籐細工を作り続けてきました。

籐細工の技術は、6代目長崎誠氏が「松江藩籐細工」として平成16年（2004）3月31日に島根県ふるさと伝統工芸品の指定を受け、さらに長崎誠氏の弟子である8代目川口淳平氏は令和5年度に「松江藩籐細工」として鳥取県伝統工芸士に認定され、現代にもその技を伝えています。本展は、初代長崎仲蔵から現在に活躍する長崎誠氏とその技術を受け継ぐ方々の作品を紹介します。

（2）使用画像

<p>⑦ ≪石畳編霞野立籠≫初代長崎仲蔵作（当館蔵）</p> 	<p>⑧ ≪笊編角斗≫二代長崎福太郎作（当館蔵）</p> 
<p>⑨ ≪網代編糸瓜掛花入≫三代森山千代市作（当館蔵）</p> 	<p>⑩ ≪下一楽編上花結編花入≫四代森山誠一作（当館蔵）</p> 
<p>⑪ ≪一楽編花生≫五代長崎藤吉作（当館蔵）</p> 	<p>⑫ 六代長崎誠氏</p> 

【画像使用条件 ※必読】

※上記画像⑦～⑫から選び、デザインすること。

※ただし画像①～⑥のうちポスターおよびチラシ表面で使用しなかった画像も使用してよい。チラシ表面で使用した画像は裏面に使用しない。

※展示作品と見間違ふことのないもの（文様パターンなど）であれば、他の画像を使用してもよい。

※画像のトリミング加工はしてもよい。作品の色を変えるような加工等を不可とする。

※作品に文字がかかること、作品と作品がかぶることは不可とする。

※使用した画像のキャプション（作品名等）は必ず記載すること。

(4) アクセス：(以下を参考に作図・表記してください。)

ACCESS

市内交通バス

●ぐるっと松江レイクライン

JR松江駅より13分
「大手前堀川遊覧船乗場・歴史館前」下車徒歩3分

●一般路線バス

JR松江駅より9分、「県民会館前」下車徒歩5分
JR松江駅より15分、「堀見縄手」下車徒歩1分

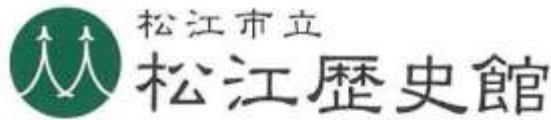
自動車

- 山陰道(松江西ICから県庁・松江城方面10分)
- 松江歴史館専用駐車場あり(徒歩1分、12台、無料)
- 当館敷地内におもいやり駐車場あり

飛行機

- 出雲空港へ
東京(羽田)90分、大阪(伊丹)60分、福岡70分
名古屋(小牧・中部国際)70分、静岡90分
- 米子空港へ 東京(羽田)80分

※ 各空港よりJR松江駅まで連絡バスが運行しております。
出雲空港(35分) / 米子空港(45分)



Facebook X Instagram で最新情報を配信中!

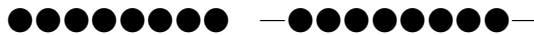
〒690-0887 島根県松江市殿町279番地
TEL 0852-32-1607 FAX 0852-32-1611

※ 最新の情報は松江歴史館ホームページにてご確認ください。

<https://www.matsu-reki.jp/>



(10) 記念対談：



無料 定員 60 名(先着順) 要申込

会場：松江歴史館 歴史の指南所

日時：●月●日(●) 14時～15時30分

講師：長崎 誠 氏(松江藩籐細工 6代目)

川口 淳平 氏 (同8代目)

※館蔵品展観覧券または年間パスポートが必要です。

(11) 親子で籐細工体験

要申込、定員●●名

日時：●月●日(●)13時30分～15時30分

集合場所：松江歴史館 歴史の指南所

参加費：●●●円

※館蔵品展観覧券または年間パスポートが必要です。

(12) ギャラリートーク

展示担当者による展示解説

申込不要

日時：●月●日(●)、●月●日(●)、●月●日(●)

各日 14時～15時

会場：館蔵品展示室

※館蔵品展観覧券または年間パスポートが必要です。

パンフレットデザイン

《基本事項》

- パンフレットは、表紙、中面2頁、裏表紙の、合計4頁で構成される。そのうち本プロポ
ーザルでは表紙のデザインを提案することとなる。
- 右綴じで、文字は縦書きとする。なお、文字の大きさや書体は定めない。文字と画像をバ
ランスよく配置し、趣旨に沿って提案すること。
- デザインは、館蔵品展「長崎家の籐細工―松江でつづく丁寧な仕事―」のパンフレットで
あることが伝わること。
- ターゲット層（※）が好むデザインとすること。また展覧会についてより理解を深めても
らえるようなパンフレットとすること。
- デザインに際し、版面の断ち切りや画像を切り抜き・トリミングして使用することや、画
像から文様等を取り出し、文様パターンとして使用することは可とする。但し、作品の
色は企画提案書作成のために提供する画像からは変えないこと。
- 仕様書で定めるように色数は4C、仕上がり寸法はB5判で提案すること。ただし、提案
の用紙については、仕様書で定める用紙でなくてもよい。（仕様書は別紙のとおり）

※本展示におけるターゲット層：

30代以上の伝統工芸や民藝に関心がある松江市民。

≪表紙≫

1. パンフレット デザイン素材画像

<p>① ≪極細一楽編煙管入≫初代長崎仲蔵作（当館蔵）</p> 	<p>② ≪石畳編炭斗≫二代長崎福太郎作（当館蔵）</p> 
<p>③ ≪花結編籠信玄≫三代森山千代市作（当館蔵）</p> 	<p>④ ≪下一楽編上花結編花入≫四代森山誠一作（当館蔵）</p> 
<p>⑤ ≪土瓶敷≫五代長崎藤吉作（当館蔵）</p> 	<p>⑥ ≪花結編クラッチバッグ≫六代長崎誠作（当館蔵）</p> 

【画像使用条件 ※必読】

※上記画像①～⑥を使用してデザインすること。ただし、展示作品と見間違ふことのないもの（文様パターンなど）であれば、他の画像を使用してもよい。

※画像のトリミング加工はしてもよい。作品の色を変えるような加工等を不可とする。

※作品に文字がかかること、作品と作品がかぶることは不可とする。

※使用した画像のキャプション（作品名等）は必ず記載すること。

2. パンフレット 記載内容

(1) タイトル

館蔵品展 長崎家の籐細工—松江でつづく丁寧な仕事—

(2) 表紙本文

籐とうのいろは

籐細工とうぎいくとは、「籐（とう）」という植物を使って作る工芸品です。籐はインドネシアやマレーシアなどの熱帯で育つ植物で、日本では育ちません。日本では、古くから葛などの蔓を利用した蔓細工、竹細工や藁細工なども同様に、古代から広く製作されてきました。

東南アジア原産の籐が日本に入ってきたのは、中世初期だといわれています。貴重で高価な籐は、主に弓や太刀などの武具の装飾に利用されていました。この流れで、近世になると籐細工の多くが武家の内職となりました。

江戸時代から松江に伝わる籐細工の技術を大事に伝える職人がいます。長崎誠さんは、松江市大庭町の「かんべの里」というところで、昭和45年(1970)から現在まで籐細工を作り続けています。この展示では、長崎誠さんの先祖である長崎仲蔵さん（～明治45年）から、6代目にあたる長崎誠さん、そしてその技術を受け継ぐ人々の作品を展示します。美しい手仕事の結晶をご覧ください。